



# しよれっと Palette

「ありがとう 伝えて広がる 協同の和」

7  
2019 July  
vol.227

しよれっと  
ありがとう  
伝えて広がる  
協同の和  
7  
vol.227  
2019 July

URL <http://www.ja-okayama.or.jp/>

発行/岡山市農業協同組合 〒700-8535 岡山市北区大供表町1-1  
発行人/岡 信明 編集/総務部総務課 TEL086(225)9846



特集

## 「JA岡山中期計画の取り組み」

農を担う  
和牛繁殖農家 白根 真由美さん  
御津地区……………10ページ



JA岡山は、組合員募集中です!

耕そう、大地と地域の未来。

## Recipe

旬のレシピ紹介



## タコとジャガイモの バジルあえ

【材料：2人分】

A アンチョビフィレ……………1枚  
ケッパー……………5粒

B 市販のバジルソース……………大さじ1  
レモン汁……………小さじ1

蒸したコ足……………1本  
ゆでたジャガイモ……………2個  
オリーブ油……………大さじ1  
ホワイトセロリ……………1束

【作り方】

1. フライパンにオリーブ油をひき、一口大に切ったタコとジャガイモを入れ、Aを加えて弱火で5分ほど炒める。
2. ボウルに〔1〕を入れ、Bと3等ほどに切ったホワイトセロリを入れて混ぜ合わせ、器に盛り付ける。

レシピ提供/永井智一(ながいともかず)  
茨城県笠間市にある「キッチン晴人(ハレジン)」  
オーナーシェフ

## あぐる グラム 編集後記

### 豪雨から一年

今回のあぐるグラムでは記憶に新しい「平成30年7月豪雨」による河川の増水で横転したトラクターの写真を紹介しします。

当JA管内でも河川の増水によるほ場の浸水など農作物への被害だけでなく、電気や水道といったライフラインが断絶した地域もありました。そうした中で、当JAでは地域に密着したJA職員として、社会に貢献する活動の一環であると位置づけ積極的なボランティア活動を行いました。

猛烈な被害をもたらした「平成30年7月豪雨」から1年が経とうとしています。あらためて被災された方にお見舞い申し上げます。



※「あぐるグラム」とは「アグリ(農業)」と「ログ(記録)」、写真専用投稿ソーシャルネットワークサービス「インスタグラム」をかけた造語です。

編集担当 荻野 透

# 平成30年度 実践概況報告

## J A 岡山 中期計画の取り組み

当JAは、平成28年度の通常総代会で設定した「JA岡山中期計画」に基づき、同年度から平成30年度までの3力年において、その取り組みを進めました。

中期計画の具体的な取組内容は、第33回岡山県JA大会で決議された県下JA統一の重点的取組事項（10項目）別に掲げて、年度ごとに進捗管理や実践状況の検証を行った後、組合員・利用者の皆さまへ広報誌等を活用して情報発信することとしています。今月号では、3力年計画の最終年度となる平成30年度の実践概況をご報告させていただきます。



### 1 担い手経営体のニーズに定める個別対応

#### ① 全営農センターにTAC(担い手担当)並びに作物別営農指導員を配置

- ・本所へ営農指導担当6人(米麦1人、野菜1人、野菜・花卉2人、果樹2人)、各営農センターより3人以上で、計28人の「TAC指導員」(米麦必須とし、野菜・花卉担当もしくは果樹担当)を配置し、担い手農家に対して専門的かつ日常的に出向く営農指導活動を行いました。
- ・TACリーダー会議を月1回開催し、本所と営農センターとの

#### ② 県域担い手サポートセンターと連携した担い手経営体への個別支援活動等の強化

- ・岡山県担い手サポートセンターと連携し、農業経営セミナーを2会場(瀬戸内・備南)で開催しました。
- ・管内の担い手への対応策として、大型農家(米麦・園芸)840人を対象に訪問活動による支援(情報提供・個別指導等)を継続しました。

### 2 マーケットインに基づく生産・販売事業方式の強化

#### ① 用途に応じた実需者への米直接販売の拡大

- ・販売計画をもとに集荷・販売を行った結果、直接販売率は米取扱数量全体の56%となりました。
- ・販路拡大のため、新たに米穀卸業者1社と取引を始めました。
- ・概算金については、加工用米(朝日・アケボノ)の単価を他品種より1,000円高く設定し、有利性の周知を図りました。



### ② 主要園芸品目の市場集約(平成30年度実施)

- ・市場集約にむけて部会別の出荷先の調査を行い、ブドウを県南・中北部の産地で重点市場にリレー出荷を行いました。

### ③ 関東・関西市場への販路拡大

- ・シャインマスカット全出荷量約171.7トのうち、関東市場出荷28.1ト(出荷比率16%)、関西市場出荷50.1ト(出荷比率29%)となり、全出荷量の45.5%を占めました。

- ・岡山白桃全出荷量約365.6トのうち、関東市場への出荷は34.7ト(出荷比率9.3%)、関西



- 市場への出荷は2.7ト(出荷比率0.7%)となりました。

### ④ 販売担当者の資質向上と体制強化

- ・青果物の有利販売につなげるため、日々の販売情勢・産地の概況を取りまとめ、定期的に各営農センターや生産部会、市場への情報提供を行いました。また、岡山市場で販売専任者研修を行い、販売体制の強化を図りました。

### 3 付加価値の増大と新たな需要開拓への挑戦

#### ① 管内農畜産物の販売促進・PR活動の強化

- ・管内農産物のPR活動として、県内17回(イオン岡山、山陽マルナカ、Aコープ西大寺等)、広島1回(イオン広島)、関東4回(口ピア、とっとり・おかやま新橋館、大宮高島屋)、関西3回(山陽マルナカ、大果大阪青果、イオン神戸南)、量販店での販促活動を行いました。

- ・備南施設茄子部会「千両なす」進発式(10月)
- ・イベント参加として、岡山市地産地消マルシェやG20岡山保健大臣会合200日前イベント「#健康人宣言岡山」、「もっと食べよう岡山米」農産物マルシェなどに対応しました。
- ・農産物直売所では産直まつりをはじめ、各店舗の特色を生かしたイベントを延べ22回開催するとともに、毎月第2・第4火曜日を特売日として、10店舗で「火曜日」を同時開催しました。
- ・新たな取り組みとして、郵便局(ゆうパック)の「ふるさと小包便」を利用し、ピオーネの買い取り販売を行いました。また、日本郵政とタイアップした「花野果ギフト」へ管内の青果物、加工品を提案し、21品目が採用されました。

#### ② 管内生産米による食味ランキング特Aの取得

- ・食味向上技術の確立とその検証

- を継続して行うため、全農を通じて「ヒノヒカリ」を穀物検定協会へ出品した結果、3年連続で「特A」に次ぐ「A」の評価となりました。

### ③ インターネット販売による新規販売先の拡大

- ・主となる白桃、ブドウに加え、新たに「千屋牛」、「飲むおかわりま白桃ジュレ」、「あらごしみかんじゅーす」、「あらごし白桃じゅーす」を商品として加え、平成30年度の販売実績は544万円(前年対比128%)となりました。



### ④ 青果物の二次加工品の開発と販売先の確保

- ・新規加工品として、一宮産白桃を使用した「あらごし白桃じゅーす」を製造し、JA岡山農産物直売所等で販売しました。

## 4 生産資材価格の引き下げと低コスト生産技術の確立・普及

### ①安価で高品質なプライベートブランド肥料の提案

・予約購買を基軸とした安定供給の取り組みを継続して行いました。JA岡山プライベートブランド肥料である「コシヒカリ・あきたこまち専用」、「ヒノヒカリ専用」、「朝日・アケボノ専用」肥料の普及拡大を図るとともに、新たに15詰袋の軽量・ハイチツン肥料「JAおかやま専用588中晩生」、「JAおかやま専用590晩生」を発売しました。



・水稲、麦、野菜、果樹などさまざまな作物に幅広く使用できる「化成肥料14-14-14」での生産コスト削減に取り組みました。

### ②大型規格農薬や省力型商品の提案など

・ラウンドアップ(200g)をはじめ、水稲除草剤のサラブレットKAI(40詰)、ジェイフレンド(40詰)などや箱苗処理剤のツインターポフェルティラ箱粒剤(10詰)、フルターボ箱粒剤(10詰)など大型規格農薬の普及拡大に継続して取り組みました。

・省力化商品として、水口施用できる水稲除草剤コメット顆粒(80g)の提案を行いました。

## 5 新たな担い手の育成や担い手のレベルアップ対策

### ①就農支援体制の整備と関係機関と連携した就農支援活動

・岡山市と連携し、担い手確保にむけた取り組みとして「新農業者



フェア」の就農相談会に参加しました。(大阪会場12月、東京会場1月)

・新規就農者の確保にむけ、トータルサポート事業の農業実務研修生として8人(果樹4人、野菜4人)を確保し、受け入れを行いました。

・農地中間管理機構と連携し、一宮地区(桃)において新規栽培者向けに40アールの農地集積を行いました。

②野菜・果樹等の農業塾開催による新規栽培者の確保・育成

・農業塾を開講し、「もも農業塾」

## 9 准組合員の「農」に基づくメンバーシップの強化

コミュニティ誌「あぐるくOKAYAMA」の発刊、農産物直売所での産直まつりの開催

・「コミュニティ誌は、平成30年7月に2018夏号を19万3千5百部、平成31年1月に冬号を19万9千部発刊しました。

・産直まつりは、平成30年9月に1回目を、12月に2回目を開催しました。

## 10 「食」「農」「協同組合」にかかる地域住民の理解の醸成に向けての広報活動の展開

笑味ちゃん天気予報を介したPR、あぐりキッズクラブの開催

・笑味ちゃん天気予報での広報活動は、平成30年度で33回行いました。

・あぐりキッズクラブは、米・野菜(ニンジン・ジャガイモ)を中心に農作業体験等のカリキュラムを



組み、年間で8講座開講しました。(参加受講生34人)

12人、「ブドウ農業塾」19人、「野菜農業塾」には延べ29人の参加がありました。

・新規就農者は、岡山市31人、瀬戸内市4人、玉野市2人、吉備中央町3人の合計40人となりました。また、生産部会への新規加入は13人となりました。

### ③税務申告や経営相談等、担い手等への農業経営管理支援強化

・税務相談会を11会場で実施しました。

・岡山県担い手サポートセンターと連携し、法人化を検討されている担い手農家(37人)へ経営診断、経営管理支援を実施しました。

## 6 営農・経済事業への経営資源のシフト

### ①JA岡山人材育成基本方針の実践

・営農指導員協議会の現地研修会(新見市)に参加しました。また、種苗会社の農場見学等に参加し、野菜の新品種情報の収集と意見交換を行いました。

・資格取得は、営農指導員5人、生活指導員2人、毒物劇物取扱責任者4人となりました。

### ②長期的視点に立った要員計画の策定

・指導課に経営管理担当2人、野菜担当1人、野菜・花卉担当2人、果樹担当2人、総合的に対応できる職員1人(米麦担当兼務)を配置しました。

## 7 地域実態・ニーズを踏まえたJAくらしの活動の展開

支所だよりの発行、地域独自イベントの開催、支所ふれあい旅行の実施、みどりのカーテンの実施

・支所だよりは、40支所、7営農センターで発行しました。

・地域ふれあい活動実施計画に基づき、地域独自イベントを実施した結果、実績は198件となりました。

・支所独自の旅行計画として「ふれあい旅行」を14支所で実施し

## 8 正・准組合員のメンバーシップの強化

JA岡山女性の開催、女性部員の加入促進、フレッシュミズの加入促進、青壮年部品目別部会の設立

・女性大学(4期生)においては8講座を開催し、延べ160人が受講しました。

・女性部の平成30年度部員数は3,064人となりました。また、新たに女性部みつ支部においてフレッシュミズが発足し、6支部59人が活動しました。

・青壮年部においては、中国・四国地区青年の主張・JA青年組織実績発表大会へ参加しました。また、分科会活動として平成30年7月豪雨の被災ほ場に流入した土砂の除去等、復興支援作業を行いました。(3月・25人参加)

## 野菜

株の状況を  
確認して、  
長期収穫を  
目指しましょう



営農部指導課  
中江 智子

### 果菜類の草勢診断

春に定植した夏野菜の苗が大  
きくなり、収穫が待ち遠しく  
なってきましたね。今月号では  
草勢診断のポイントを書いてい  
ます。株の状況を確認して、長  
期収穫を目指しましょう。

#### ナス

ナスは花の状態を確認しま  
す(資料1)。雌しべの柱頭が  
雄しべより長いと草勢がよく  
正常な状態です。ナスの花は  
下向きにつくので、雌しべが

雄しべより短いと受粉できま  
せん。このような場合は急い  
で追肥をしましょう。また花  
の色が淡く、白みがかつた紫  
色になっている場合も、栄養  
が不足しています。

#### トマト

トマトは株の上端から約10  
〜15センチの茎の太さ、葉の巻き  
方を確認します(資料2)。茎  
の太さが1.2センチ程度、葉が軽く  
巻いている状態が正常です。  
一方で茎が太く、葉の表面が  
ぼこぼこして内側に強く巻い  
ている場合は、草勢が強く栄

#### カボチャ・スイカ

カボチャとスイカは、つるの  
先端を確認します(資料3)。  
つるの先が地面から約45度立ち  
上がっている状態が正常です。  
つるが45度より立ち上がって  
いる場合は栄養過多、つる先  
が下を向いている場合は栄養  
不足です。

#### 追肥と灌水

今回紹介した品目の一般的  
な追肥量と追肥時期の目安を  
資料4に示しています。草勢  
診断で正常と判断される場合  
は、急いで追肥をする必要は  
ありません。栄養不足の場合  
はなるべく早く追肥を行い、  
栄養過多の場合は追肥を控え  
てください。

梅雨が明けてからは乾燥に  
も注意が必要です。日中に土  
壌が極端に乾燥し、葉が萎れ  
る場合は灌水量を増やしま  
しょう。また、敷きわらや敷  
き草は乾燥防止と地温抑制に  
役立ちます。

### 資料1 ナスの草勢診断

	がく 雄しべ 雌しべ 長花柱花	中花柱花	短花柱花
花の色	濃い紫色	紫色	淡い紫色
追肥	層通り行う	追肥で草勢維持	急いで行う

### 資料2 トマトの草勢診断

	太い	1.2センチ程度	細い
茎	太い	1.2センチ程度	細い
葉	内側に強く巻く	軽く巻く	上向きに立つ
追肥	控える	層通り行う	急いで行う

### 資料3 カボチャ・スイカの草勢診断

	立ち上がっている	約45度	平行、下向き
つる先	立ち上がっている	約45度	平行、下向き
追肥	控える	層通り行う	急いで行う

### 資料4 追肥のタイミングと10平方メートルあたり追肥量(窒素成分)

ナス	①一番果肥大後 ②①の後1週間〜10日おき 1回約30g
トマト	①一番果が10〜500円玉大の頃 ②3、5、7、9段開花時 1回約20g
カボチャ	①つるが50センチ程度 ②一番果が着果 1回約40g
スイカ	①つるが50センチ程度 ②一番果が着果 ③一番果が茶碗大の頃 ①約20g ②約40g ③約20g

## 花き

翌年の  
花芽を残す  
せん定方法が  
必要です



営農部指導課  
中川 雄一

今回は、花木の花芽分化  
(目には見えないが来年の花  
の芽ができること)の時期と  
せん定の関係についてお知  
らせします。

#### せん定の狙い

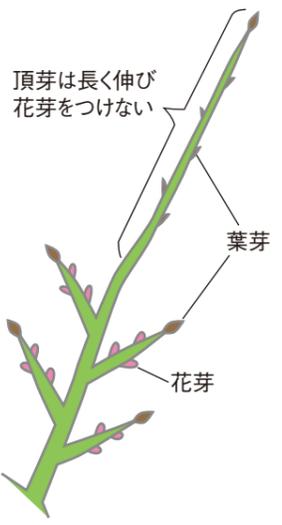
冬にせん定すると、樹形  
がまとまるが花はあまり咲  
かないということはないで  
しょうか。せん定の大きな  
ねらいは①樹形(さらに庭  
の景色)を整えることと②  
花つきをよくすることがあ  
ります。

②を重視する場合は花芽  
分化の時期を知って、翌年  
の花芽を残すせん定方法が  
必要です。

### 資料5 主な花木の花芽分化時期と開花時期

花木名	花芽分化期	開花期	花芽ができる場所			開花する年	
			頂芽(先端)	頂芽、側芽	側芽	分化した年内	分化の翌年
キョウチクトウ	3~4月	7~9月	○			○	
キンシバイ	5月	6~7月	○			○	
バラ	5~11月	5~11月		○		○	
ハイビスカス	4~9月	6~11月		○		○	
サルスベリ	4月	7~9月		○		○	
ウメ	7月	1~3月			○		○
ハナモモ	9~12月	3~4月			○		○
ロウバイ	6~7月	12~2月			○		○
ユキヤナギ	10月	4~5月			○		○
シモツケ	8~10月	6~7月			○		○
アオキ	7~8月	3~4月	○			○	
サザンカ	6月	10~12月	○			○	
ツツジ	6~8月	4~5月	○			○	
モクレン	6~7月	3~4月	○			○	
ライラック	7月	5~6月	○			○	
アジサイ	9~10月	6~7月		○		○	
ボタン	7月	4~5月		○		○	

### 資料6 ウメなど側芽に花芽ができるもの



花芽を作って翌年  
咲くので、花芽が  
できてからせん定  
すると花芽のある  
部分を切り落とす  
ことになりません。  
特に茎の先端や、  
先端に近い側芽に  
花芽をつけるアオ  
キ以下は、大まか

●花芽分化と開花の主なタイプ  
タイプ別に花芽ができる  
時期や位置、開花時期の関  
係を整理しました(資料5)。  
上から5番目のサルスベ  
リまでは春以降花芽ができ

てその年の内に咲く(冬はま  
だ花芽ができていない)の  
で、開花期のあとから冬季  
にせん定してもよく開花し  
ます。  
ウメ以下は夏から秋の間に

には開花直後の花芽分化前  
に作業をするか、遅くなった  
いくらか花が少なくなるのを  
覚悟の上で間引くように切り  
戻したりします。  
7月にはツツジの仲間も

花芽分化が進んでいるので、  
生け垣などをこれ以降に刈  
り込むと来年の花は少なく  
なります。  
ウメやハナモモなど(青い  
網掛け部分)は冬にせん定し  
ます。それは花芽が側芽に  
できるので枝を切り戻して短  
くしても花を咲かせることが  
できるからです(資料6)。

# 果樹

基本技術を徹底し、想定外の事態に備えましょう



営農部指導課  
小野 智寛

梅雨が明けるといよいよ本格的な夏に入ります。7月の主な作業を資料7に掲載していますので参考にしてください。  
近年は、夏期の異常気象が果実生産に影響を及ぼしているため、もう一度基本技術を徹底し、想定外の事態に備えましょう。

## 一 ブドウの管理

●房落としと袋掛け  
簡易被覆栽培ピオーネは、7月上中旬から果実が柔らかくなり着色が始まります。この時期は、最終の着果房数の見直しや袋掛け(資料8)、枝の手入れと被覆ビニールの除去を行います。  
樹にならせる房の数の目安は、

5本の新梢に3房です。あまり多くなると着色不良や樹勢の低下の原因になりますので気を付けましょう。まだ枝が伸びている場合は、副梢や新梢の先端を切除します(資料9)。

袋掛けは、直前に農薬を散布して、病害虫のいない状況で行います。農薬散布は、房にかけ過ぎると果粉が流れたり、房の汚れの原因になります。雨明け後は、着色不良や高温時の葉焼けを防ぐため、ビニールを除去します。その際、鳥害を想定して防鳥ネットなどを掛けておくといよいでしょう。

### 資料7 7月の主な作業

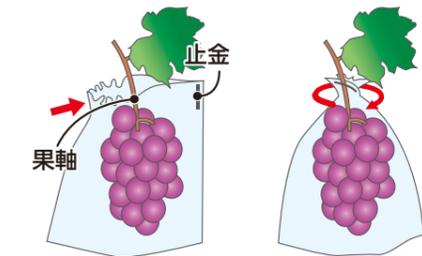
桃	収穫、新梢整理、灌水
ブドウ	房落とし、袋掛け、ビニール除去、枝整理
梨	新梢の誘引、灌水
柿	ヘタムシ防除、摘果、追肥
梅	追肥、灌水
リンゴ	灌水
スモモ	収穫、灌水
イチジク	新梢の摘心、カミキリムシの防除、灌水
キウイ	新梢の摘心、灌水
ミカン	荒摘果、灌水
ビワ	収穫

また、土壌水分が極端に変化する原因になるので、灌水は天気を見ながら、少量をこまめに行うようにしましょう。

## 二 柿の管理

柿は、7月上旬に生理落果が終わるので7月中旬から摘果し、傷や変形果のほかには、ヘタの形が悪いものも摘果しましょう。ヘタの形が悪いと、果実が大きくならなったり、ヘタと果実の間に隙間ができたりします。これを早めに摘果することで果実肥大や、隔年結果の是正に繋がります(資料10)。

### 資料8 ブドウの袋掛け



あらかじめ袋をふくらませておき、房を袋内中央に入れ、止金の付いていない方をすぼめる。  
止金を横に倒し、果軸に巻きつけ口元をしっかりとめる。

### 資料9 果粒軟化直前の枝管理例

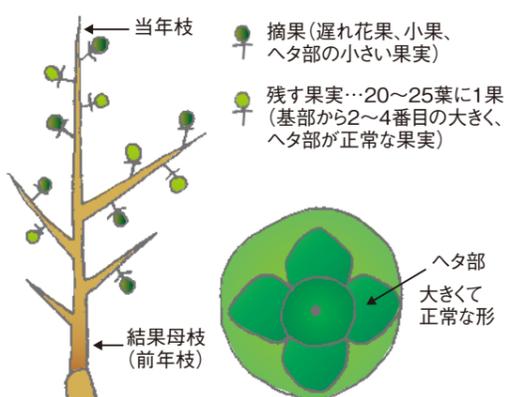
新梢の先端から1本の副梢を伸ばした場合



再伸長した、副梢を切り返す

新梢の先端は摘心節から3~5節程度の硬くなった節位で切り返す

### 資料10 柿の摘果



摘果(遅れ花果、小果、ヘタ部の小さい果実)  
残す果実...20~25葉に1果(基部から2~4番目の大きく、ヘタ部が正常な果実)

ヘタ部  
大きくて正常な形

6月下旬~7月上旬には力キノヘタムシガ(ヘタムシ)の防除を行う時期ですが、果実が赤く色づくころに葉が落ちてしまう落葉病も多くみられるので、同時に防除します。